

会場：京都大学福盛財団記念館3階 中会議室、時間：15:00～17:00 参加無料、予約不要



『女を修理する男』



監督：ティエリー・ミシェル
2015年／ベルギー／112分 配給：コナイテッドピープル

第245回 2019年10月17日(木)

世界最悪の紛争：コンゴ内戦と「性的テロリズム」の実態

米川 正子

(筑波学院大学経営情報学部・准教授、「コンゴの性暴力と紛争を考える会」代表)

コンゴ民主共和国で続いた紛争では、第二次世界大戦以降、世界最大の犠牲者数となる600万人以上が命を落とし、「世界レイプの中心地」とも呼ばれるほどの性暴力が横行した。本講演では、この紛争地において婦人科医デニム・クウェグ医師(2018年ノーベル平和賞受賞)が暴力の被害者を治療する姿や紛争の実態を描き出した映画『女を修理する男』(2015年)を上映する。映画を通して、紛争の要因の一つである鉱物資源および性暴力の問題を、グローバル経済や日本で生きる私たちとの関係において再考したい。

※ 映画上映を含むため、17:30終了とします。
来場者多数の場合は、入場をお断りする場合があります。



245

246

第246回 2019年11月21日(木)

タンザニア政治の今： マグフリ政権の4年間を振り返る

粒良 麻知子

(日本貿易振興機構アジア経済研究所
地域研究センターアフリカ研究グループ 研究員)

2015年の大統領選挙で選ばれたタンザニアのマグフリ大統領は、就任直後から、汚職対策や政府の経費節減などを進め、その指導力が国民から高く評価



されてきた。一方、野党の集会やメディアを厳しく取り締まっており、国内外から強権的であるという批判も受けている。本報告では、タンザニアの選挙や政党政治の変遷をふまえ、過去の政権や他のアフリカ諸国と比べながら、マグフリ政権の4年間の特徴を考察する。



247

H30年度京都大学アフリカ研究出版助成記念講演
H30年度総長兼重経費(若手研究者に係る出版助成事業)

第247回 2019年12月19日(木)

酒を食べる：エチオピア農耕民デラシャの暮らし

砂野 唯

(名古屋大学大学院生命農学研究所・特任助教)

太古の昔から、娯楽や社会関係の構築、神韻、病気の治療、報酬など、さまざまな理由・場面で酒が飲まれてきた。「酒は百薬の長」と言うが、毎日大量のアルコールを飲めば肝臓に負担をかけ、結局は健康を損なってしまいう。そのため、主要なカロリー源や栄養



源として酒が飲まれることはない。ところが、エチオピアに暮らす農耕民デラシャは、酒を主食とし、それ以外のものはほとんど食べない。本発表では、酒を食事とする文化とはどのようなもので、アルコールの有害性はどのように回避されているのかに触れながら、世界でもまれな酒食文化とそれを取り巻く環境についてみていきたい。

第248回 2020年1月16日(木)

マダガスカルにおける一農村の35年： 多生業性世界の変容と小農の持続性

深澤 秀夫

(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・教授)

マダガスカル北西部の稲作と牛牧の複合した一農村における社会人類学的臨地調査を、1983年12月から現在まで行ってきた。調査地に辿りつくまでの経緯やそこで体験した出来事の紹介、その時々々の国家レベルの政治的・経済的状況の解説を交えながら、この35年ほどの間に一農村を舞台に展開されてきた生活世界の多面的かつ多重的な変容を、多生業性と小農、二つの視点から読み解く。



248

第249回 2020年2月20日(木)

アフリカの健康課題： 食習慣とライフスタイルに注目して

立山 由紀子

(京都大学環境安全保健機構・特任助教)

サブサハラアフリカでは、母子保健や感染症に加え、糖尿病や高血圧などの生活習慣病も主要な健康課題となりつつある。その主な要因として、経済発展、都市化、グローバル化に伴う食習慣、ライフスタイルの変化が考えられる。本発表では、ザンビア農村部を中心に、アフリカ地域の生活習慣病の現状、食習慣、ライフスタイルおよび生活習慣病に対する認識について報告する。



249